

24時間テレビ報道ドキュメンタリー

もうひとつの“北京”

～盲目柔道家が挑む金メダル～



2008年8月31日(日) 8時30分ごろ～放送(24時間テレビ内)

北京五輪に沸いた日本列島！！
そして、9月6日からは、障害者によるパラリンピックが始まる。
東海三県からは12選手が北京へ向かう中、
柔道で金メダルを狙う男、広瀬誠選手の姿を追う！

広瀬誠・31歳、視覚障害者柔道(男子60キロ級)出場選手、愛知・西尾市出身。
愛知県立名古屋盲学校の教諭。
視神経萎縮のため、高2から急に視力を失い、今は弱視。
しかし、視覚障害になる以前から始めていた柔道を続け、
アテネパラリンピックでは惜しくも銀。

強豪選手を倒し、手にした“北京”への切符…。
広瀬選手にとって、恐らく最後となるパラリンピック。
北京で、金メダルにこだわるのには訳がある。
視力が失われたことを「自分のせいではないか…」と責め続ける母親に、
金メダルを獲って「障害を負っても自分なりに幸せな人生を送っている」と伝えたい。
そして、広瀬さんの普段の練習相手になってくれる道場の仲間たち(健常者)にも
金メダルで、恩返しをしたいのだ。

広瀬さんにとってアテネの時とは異なることがある。
2年前に結婚した妻・里美さん(健常者)の存在。

北京に向けての課題は“スタミナ作り”と“1か月1キロの減量”。
“スタミナ作り”は自分との闘い…、日々の走り込みを行っている。
そして、“減量”は妻の支え…、カロリー計算した料理など陰の力が欠かせない。
夫婦二人三脚で、アテネでは成し遂げなかった夢をつかむことができるのか？
そして、広瀬さんが私たちに伝えるメッセージとは？

